

高等学校第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

期 日 平成28年10月19日(水) 3限目(美術科)
10月26日(水) 7限目(普通科)

場 所 熊本県立第二高等学校
1年A組教室(美術科)
1年1～8組教室(普通科)

指導者 1学年団

1 単元名

普通科・美術科テーマ研究 「くまもと未来新聞」

2 単元について

(1) 単元観

本単元は総合的な学習の時間とSSH事業を関連させ行っているものである。本校SSHでは科学的な創造力・独創力・探究心の育成を目指しており、理数科で確立した探究活動を普通科、美術科に普及させSSH事業を全校で展開している。科学的な探究と「総合的な学習の時間」で示された探究スパイラルを連携させ、より深い学びを実現することを目的としている。

また、今年度、熊本地震により生徒たちの学習環境は大きく変化した。その中で生徒たちが当事者意識を持ち、かつポジティブにこの課題を乗り越えられるよう、「未来新聞」という課題を設定した。

これらのことから、本単元において「くまもと未来新聞」の学習を行うことで、結論から先に考える思考法による論理性と協働的な学習態度、新聞作成と発表によるプレゼンテーション能力の向上によって、主体的な学習態度と科学的な探究能力の獲得につながり、更には本校の三綱領である「自主積極、謙恥自尊、礼節協調」の具現化につながることを期待している。

(2) 系統観

第1学年(1学期)	第1学年(2学期)	第1学年(3学期)	第2学年(1～2学期)
(進路研究：学問・職業研究) 多様な学問領域や職業を学ぶことで自己の適性を知る。	(テーマ研究) 「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究スパイラルを学び、主体的に学習する態度を身に付ける。	(小論文) 小論文作成の基礎を学び、表現力を身に付ける。	(テーマ研究) 身近な事柄から課題を発見し、調査・研究・発表を行うことで科学的な探究の態度を身に付ける。

(3) 生徒観

第二高校は普通科8学級、理数科1学級、美術科1学級の3科10学級を有し、4年制大学への進学希望者が大半を占める。多くの生徒は学習に対して意欲的に取り組んでいる。しかし、平成23年度と平成28年度を比較すると自宅学習時間が週当たり約3時間減少し、授業中の学習態度にも受け身の姿勢が目立つなど、主体的に学ぶ姿勢を伸ばすことが課題である。総合的な学習の時間を通して自己の適性を見つめ、アウトプットを前提とした学習を通して当事者意識を持ち、社会の課題に主体的に向き合うことで、能動的に学ぶ意欲の向上が期待できる。

(4) 指導観

グループで課題を設定し、手分けして原稿を作成する。最後にワールドカフェ方式で発表することで協働的な学びと個人の学びを連動させ、主体的な学習を深めるリズムをつくる。

学びを引き出す
学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ①地域の課題を発見し、「未来新聞」として提案することで、課題発見・問題解決の手法を意欲的に学ぶようにする。
- ②結論から考察することで、課題設定能力、論理性を学ぶ。

学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	③ ループリック評価表を用いて、自己評価と他者評価で自らの学びを振り返る。 ④ ワールドカフェ方式の発表会で全員が発表を行い、他者と学んだことを共有する。
学びを支える 学びのUD化とICT の有効活用及び支持的風土	⑤ ワークシートを用いたグループ活動を通して、互いの得意分野を認識し、役割分担を行うなど、協働的学習の態度を学ぶ。 ⑥ 付箋紙に意見を書いて出し合うことで、一人一人の意見が尊重され、多様な考えを受容しやすい環境をつくる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	結論から先に考える思考法により、ものごとを論理的に考えることができる。 新聞作成と発表によりわかりやすく考えを伝えることができる。 自ら主体的に学習に取り組むことができる。		
主体的・協働的に学習する態度	科学的探究能力	思考力・判断力	表現力
① 自ら進んで新聞作成に取り組むことができる。 ② 積極的に班員と交流し、考えを深めることができる。	① 未来新聞のテーマ設定を通し、結論から先に考えることができる。	① 論理的で充実した内容の記事をまとめることができる。	① 自分たちの考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

4 指導・評価の計画（4時間取扱い 本時4／4）

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	くまもと未来新聞①：現代社会の夏休みレポートをベースに、熊本の課題や身近な課題をテーマにした未来の新聞記事の見出し考える。	【主体的・協働的に学習する態度】 ① ：ワークシート 【科学的探究能力】 ① ：ワークシート 【学びを引き出す】 ① 現代社会のレポートから浮かび上がる地域の課題に目を向け、当事者意識を持って課題の解決について考える。 ② 未来と現在をつなげるために必要な要素を考える。 【学びを振り返る】 ③ ワークシートとループリック評価表を活用して、自己評価を行う。
二	1	くまもと未来新聞②：未来の新聞記事の内容を話し合い、概要、経緯、今後の展開、用語説明、図の構成を考える。	【主体的・協働的に学習する態度】 ① ：ワークシート 【科学的探究能力】 ① ：ワークシート 【学びを引き出す】 ② 未来と現在をつなげるために必要な要素を考える。要素どうしのつながりを意識して話の筋道を立てる。 【学びを支える】 ⑤ 生徒の得意分野を意識しながら、記事作成の役割分担や構成を考える。 ⑥ 付箋紙にキーワードや意見を書く。

三	1	くまもと未来新聞③：新聞の作成（A3用紙）。各自が作成してきた記事を新聞として構成する。	【思考力・判断力】 ①：新聞記事の内容や構成，ワークシート 【学びを支える】 ⑤⑥ 各自が作成した記事を出し合い，新聞の構成を決定する。
四	1 本時	くまもと未来新聞④：ワールドカフェ方式で発表。	【思考力・判断力】 ①：ワークシート 【表現力】 ①：ワークシート 【学びを振り返る】 ③ ループリック評価表を用いて，班の発表について振り返る。 ④ 発表後に班内で情報の共有を行い，課題点などを出し合う。

5 本時の学習

(1) 目標

ワールドカフェ方式で複数回発表し，また他者の発表を同じグループに伝え共有することで研究内容をより定着させる。また，他者の発表を聞き，互いの研究の課題を考察する。

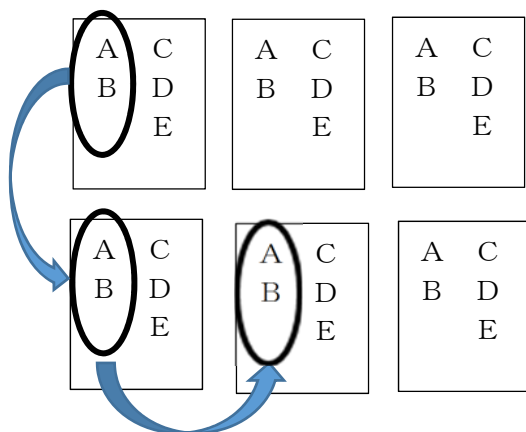
(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 10分	1 諸注意を確認する。 グループに分かれて座る。 ワールドカフェの方法を聞く。 作成した未来新聞を確認する。 学習課題（めあて） 未来新聞の記事を他者にわかりやすく伝える。	○必ず全員が発表をするように，確認する。	未来新聞原稿 カテゴリー札
展開 35分	2 ワールドカフェ方式で発表会を行う。 各グループの構成員に「A～E」のナンバリングをする。 (1) ABが隣のテーブルに移動し発表の参観者になる。C～Eは自班のテーブルに残り，発表者となる。 (2) C～Eが未来新聞の説明，ABが発表を聞く（3分説明，1分質疑，評価シート記入1分，移動1分） (3) ABは次のテーブルへ移動し，②と同じ要領で発表を行う（時間同じ） (4) ABは自班のテーブルに戻る。 (5) ABが発表者，C～Eが参観者となり(1)～(3)と同様の形式で発表を行う。	【視点2】④ワールドカフェ方式の発表会を通して，話し手と聞き手を複数回経験することで，多様な気づきを促す。 ○指導者がタイムキーパーをする。 ○指示をするタイミングは指導者が手を上げ示す。気づいた生徒は話をやめ手を上げる。やわらかい雰囲気のまま進めることができる。 ○他者の発表を評価しながら聞くことで，自らの発表態度へ反映させるように促す。 評価：思考力・判断力 ：表現力 （ループリック評価表） ○学んだ内容を出し合うことで学びが深まるように促す。	ストップウォッチ ループリック評価表 （他者評価）

	(6) 自班のテーブルに戻り，発表を聞いた内容を報告し，学びを共有する。(5分)		
整理 5分	3 ルーブリック評価表を用い，自己評価を行うことで自らの学びを振り返る。 他者評価と自己評価を比較し，評価の妥当性を気づく。 4 次回の予告をする。 次回は同じ内容をテーマ研究にすることを説明する。 発展的な内容であったり，別の視点から捉えなおしてもよい。	【視点2】③ルーブリック評価表を用いることで，振り返りの視点を明確にし，自己の成果や課題を実感できるようにする。 ○評価表を見比べることで，自らの成長を実感できるように配慮する。	ルーブリック評価表 (自己評価)

※ワールドカフェ方式の動き方

1回目・2回目



3回目・4回目

